

## 令和5年度 芸術表現企画事業費採択課題

事業代表者		事業名	事業成果（概要）
所属	氏名		
ビジュアルアーツ 専攻	曾根博美	ヒア・カムズ・エブリバディ みんなおいでよ ラーニング・ ジェンダー	<p>男女の性差、性役割、LGBTQ+、無意識のうちの差別 —— ジェンダー格差をめぐる認識は活発になってきたが、十分とは言いがたい状況にある。秋田公立美術大学のみを見ても、学部・大学院全体で女子学生が82%なのに対して、教員は84%超が男性であることが指摘されている。（ジェンダーバランス白書2022, 表現の現場調査団）* このようなジェンダー格差と権力の非対称構造は社会構造の問題であるが、家庭、教育機関、職場での取り組みは表層的な段階に留まっている。ジェンダーにまつわる違和感や問題意識は、近年芸術作品にしばしば登場しているが、ジェンダーの学びは芸術との関わりにおいて取り上げられることが少なく、また芸術とともに学ぶ機会を持ちにくい。本事業は、このような状況に対して必要を感じたことから生まれた、ジェンダーに関して学びを深め、認識を高めるラーニングプログラムと、多様性の表現を学生だけでなく秋田の市民にも伝えることの出来る展示会の連携企画である。ラーニングプログラムはジェンダー格差や権力の不均衡に違和感を持ち活動していた個人の集合である秋田市内の団体trunkが担当し、開かれたお話し会、対談イベント、トーク等を担当する。展示はラーニングの延長と位置づけ、本学の学生、卒業生、教員、助手、職員を対象として作品を募り、あるいは制作した上での作品に、海外からの作家の作品を加えて開催する。展示に関しては鑑賞者の多様性を考慮した鑑賞プログラム、ワークショップを開催した。会期中に起きるすべてのできごとを包含した自分ごととしてジェンダーを考える場として“When We Talk About Us,”（わたしたちについて語ること）と名付け、大学から発するひとつのムーブメントとなることを目指した事業である。</p> <p>*秋田公立美術大学のデータは2020年度の公開データを使用。</p>